汚職県政を許すな
稲築で県民協支部結成

【山野】国内に前例をみない県政汚職が発生し、三月二十七日、副知事、出納長の両名が逮捕され全国的に大きく発表された。このような事態を知つた県民の怒りは大きく爆発して三月三十日に福岡において県政汚職糾明県民大会が開催され大会において汚職糾明県民協議会結成が決定されてその具体的結成に乗りだした。その間に社会党県議団を中心に、県政の最高責任者である土屋知事の退陣協議を行い、六月三日知事退陣決議案を上提して闘つたが、一票の差をもつて否決をされるに至つた。県民大会で決定された県民協議会結成は、各地区において続々結成されてきた。嘉飯地区は八月九日に至り結成のはこびになつた。嘉飯地区一本の組織では広範囲な関係から枝葉となる各支部の結成をすることにより、細部活動の完全消化を期するために稲築地協の支部結成へと八月二十五日に地協幹事会を開き、具体的内容の検討を行い支部結成を確認した。引続き二十六日政治局会議を開き、町議会当局への働きかけを強く要請して支部との行動に協力態勢を確立する点を確認した。具体的な情宣活動、署名活動については九月三日のリコール支部対策委員会の中で検討を行い実施要綱を決定する。

賃金現場展開終る
炭労の討論会へ反映

【山野】山元賃金展開を終了して第五回中央委員会以降、専門委員会で数回に亘る論議を行なつた最終結論に逢しました以後、各現場に密して職能給の格付、昇給配分等について職域委員会および職場代表者会議を開催して現場展開を行なつてまいりましたが、困難な個人格付等も職域委員および代表者組合員の協力により終了しました。

今回の展開に当つて問題となつた点、又は将来お互に研究し合う必要を感じたものを二、三点拾つて見ますと、まず職種間の賃金格差を巡る「ウエート」の変更に就いて専門委員会の中でも相当論議を重ねてきたが、各々性格の異なる職種の労働学校や作業環境を測定する適格なる尺度が科学的にも立証されておらず、また現在の賃金の内に含む生活給的要素が相当あるなどの現状よりして最終的にはお互の話合の中で若干の操作を行なうに止まつた。定額給者については何といつても従来のベース賃金を実績本人給としたところに問題があり、各個人別には賃金の上昇になるが、高年令、高年功者の退職と若年者の新入によつて平均額はベースに引き直してみた場合に、必ずしも上昇とならない職種が出てきた。さらに職能給のランクについても職間ウエートと同様な内容を持つており、ことに坑外については現行の五段階を職階級的に細部化して行くか、現業と事務の二本立ぐらいに集約するという考えなども出てまいりまして。以上展開を終了した後、中央炭労の職場討論集会が行なわれ、充分以上のような山元の諸問題点を中央に反映いたしておりますが、お互に今後の問題として研究して行きたいと考えています。

無限の欲望
九大 奥田八二

〃昔陸軍今総評〃ということが近ごろよくいわれている。「たとえばなし」というものは、理くつのよくわからない人にそれをわからせるのに便利な話法ではあるけれども、使い方が悪ければ、全く誤つたことを主張することにもなる。

四年前（昨年も）スト規制法が問題になつたとき、組合のスト権は〃狂人に刃物〃だといわれたがこんな用法はまちがつている。この二つのたとえでは、炭労に手放しのスト権を与えておけば、狂人が刃物を振りまわす時のように何をしでかすかわからない、危くつてしようがない、ということ。また、昔陸軍が国民の利益をふみにじり国会を我がものとして横暴を働き、わが国を敗戦に追いこんだように、今の総評もこれと同じことをしかねない、ということが主張されているのである。

こんな主張は正しいだろうか。

正しいと思うか思わないかの分れ目は狂人や陸軍、炭労や総評のもつ性格の正しい理解にかかつている。

炭労のストの決定は、少くとも組織の多数者の意見に従つて行われる。それに家族を含めた組織者以外の多数の同意が背後にある。スト賛成者は恐らく百万を下るまい。それなら、百万の狂人ということになる。総評の場合は数百万の狂人ということになる。常識では百万でも十万でも、それだけ多数者の意思があるなら、これを狂人とはいわない。

少数の軍首脳部が、同じく政府機関である特高と結び検察、それに法律を動員して報道や言論や団結を弾圧しながらやつた事と単なる民間の団体である総評が何千という代議員傍聴者の間で決定して行う事とを同一視できるだろうか。

炭労も総評も個人でもなければ少数者の独裁で動く団体でもないまして権力をもつ政府機関でもない。炭労も総評も封建君主のような無邪気な〃無限の欲望〃はもつていない。もとうとしても、もてるものではない。

〃無限の欲望〃といえば、先日三川支部での研究会でこれが問題になつた。人間の欲望は無限だ、ということがよくいわれる。労働者は二万円でも五万円でも十万円でも一千万円でも欲しいという。

しかしわれわれは、努力しさえすればかなえられる欲望と、空想的な欲望とを区別しなければならない。空想的な欲望に努力をおしまないなら、これこそ正に狂人であろう。

欲望のない人間は死ぬより外はない。その意味では生きている限り人間の欲望は無限である。しかし、生きている人間の現実の欲望は有限であり、とりわけ労働者の欲望はきわめてひかえ目である。

一例をみよう。お隣りの奥さんは夏が来る度毎に冷蔵庫の必要なことを主人に訴え、ある夏、乏しい家計の中から六千円を割合して冷蔵庫に対する欲求をかなえた。ところが、冷蔵庫の機能を維持するために毎日二、三十円の氷に出費せねばならず、冷蔵庫の中には残飯と安もののトマト数個が入れられるに過ぎず、それではもつたいないというわけで、いりもしないサイダーやビールを買つてきて入れたが、これでは子供と主人が浪費する口実ができるだけ。とうとうこの奥さんは、この冷蔵庫を一夏も使わずに、今年もホコリがつもるにまかせている。

冷蔵庫への欲求は、電話や肉やビールが盛んに使われ、多くの来客または大家族の存在が前提となる。ただ、あればあるにこしたことはない。というだけでは、それを無限の欲望ということはできない。新聞雑誌書物への欲望は豊かな知識と読書の余暇が前提となるだから人間の欲望は永遠に発展するであろうが、現在の欲望は有限でしかないわけである。

〃無限の欲望〃という言葉は、支配階級が被支配階級のわずかな要求を、〃無限〃と称してしりぞけるために悪用され、宗教教義のなかなどにもちこんだ言葉ではあるまいか。

× × ×

声
汚職はたたけ

【田川】組合では毎号ハガキによるアンケートを行つていますが、解答された一ツ二ツを次に紹介いたします。

◈テーマ
一、土屋県政汚職について
二、創価学会について
三、執行部にのぞむこと
四、「たかは」について

◈解答

四坑 内工 二十九才

一、汚職を誇りとする政党だけにこのまま世論が見逃すことは恐るべき結果をまねくことと思うこのさい徹底的にたたくべきだと思います。

二、インチキ教を学会などとインテリー的美名を使つて、たくみに学者をひつかける。噂では強引に暴力で入信させるとさえいつています。炭労もこの精神異状者誠聖なる会長には手をやいていることとは思うが、われわれ組織労働者にとつては白アリ的な存在で、絶対排除すべきだと思います。

三、昇給に賞与に次々の闘争に上上の成果をおさめている。これも最近の執行部が本当に充実してきたからのことと感謝しています。ただ不当な弾圧が目立つてきた今日、一層組織を固めるべく、皆様の努力をお願い申し上げます。

四、別になし。

四坑 採炭 二十九才

一、解答なし。

二、創価学会がいかなる宗旨をもつて大衆にのぞんでいるか詳しく知りませんが（先号の解説だけでは布教の圧力と非科学的生活信条の要求を衝いつつもので、宗旨の解説ではなかつた）宗教であるかぎり、組合とてもそれを束縛することはできないでしよう。ただ組合員の弱点（個人のもつ弱さ）と他力本願的欲求への働きかけで、組合運動に支障を来たす恐れのあるとき——すなわち解説の如きであるとき——組合は組合員の迷いを明かしてやるべきでしよう。

三、解答なし。

四、人物紹介面白く読んでいます

三山文化の交流を
山野 三木 稔太

硬山に樹木は育たぬといわれるが食糧難にせまられて、真剣に硬山と取組んでみると、けつこうに麦が育ち、大豆がなり、陸稲もとれることが実証された。炭坑地に文化は育たぬともいわれるが、中央の文化活動の活発化とともに、各地にうたごえサークルが発足した私たちの山野文芸サークルは発足して、まだ一年と七カ月あまりしかならず、ようやく第五号のサークル誌発行にしか至つておりませんが、真剣に硬山と取つ組む気持で文学運動を続けています。それとともに友山の三池、田川はどういう風にやつておられるのだろうかと思い、芽生えた文化を大きく育てて行くためにも、努力が効果的に実つて行くためにも、三山の文化交流が欲しい、と山野の文学サークルでは話がでています。そこで、今秋にでも三山の文学協議会をもつように努力できないものだろうか。

賃上げは難しい？
上村氏と一問一答

三山共同デスクでは炭労賃金討論集会のため来山した上村給与部長に賃金闘争のこんごのスケジュールや、困難を予想される今秋の闘争など来山を機に一問一答をこころみることとした。（聞く人・古賀西鉱連副委員長）

古賀 賃金討論集会にわざわざお出でになりましたのですが、この目的はどういう所にありますか。

上村 簡単に要約しますと、賃金を中心にしたこんごの諸闘争の基本的なものを理解してもらいさらにその上に立つた具体的なものをそれぞれの職場の中から引出し、本当に組合員の実感のこもつた方針を作るということにねらいをおいたのです。

古賀 では、こんごの日程はどう組まれていますか。

上村 闘いを進める基本的な考えは総評の秋季闘争を精神とした中で、炭労の闘いも進めなければならないでしようが、当面の闘いとしては、九月六日に九炭労で、九州自体の討論会の集約をやり、各支部でやつた集約を兼ねて補足する。九月半ばごろ十四社の調査、生産担当者と地方本部の担当者で地方調査会議を開き、各地方でまとめたものを最終的に仕上げ、十月初旬にかけて大衆討議資料としての資料をまとめる。大体こういうことにしています。なお、九月二十日過ぎには退職手当と、けい肺闘争を本格的に交渉再開します。そこで、この討論が終り次第退手、けい肺闘争に入るわけです。そして十月初旬には第一期大衆討議資料がまとまると思うので、これを大衆討議して十月下旬に炭労の臨時大会を開いて最終的にまとめあげ、大会が終りしだい期末手当を中心に賃金の展開がはじまると思います。

（上村給与部長）

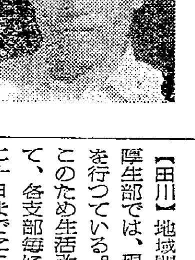
古賀 総評の日程との関連はどうなりますか。

上村 総評の秋季闘争との関連を考慮しながら闘いを進めますがいまの所鉄鋼、造船は秋季闘争を賃上げでやることになつている。だから、これに炭労の退手、けい肺闘争が時期が合うと思つています。さらに総評では九月上旬には賃金討論会を開いていますが、炭労のがスケジュール的に間に合わないので、後で総評に持つて行き、総評全体のものとしてまとめてもらうことにしています。

古賀 大衆討議はそうすると十月に入つてから行うわけですね。

上村 そうです。討論会の集約を十月十日ごろから再度大衆討議に落す、そして大会で集約するだから二回大衆討議の期間があるわけです。

古賀 神武景気の下火で賃上げは困難だと盛んにPRされていますが、見落しは……。



（古賀西鉱連副委員長）

上村 今度の討論集会で十分理解してもらわなければならぬのは現在の情勢です。経済の動きにつれてこんごのわれわれの闘いを何とか押えようと敵はしています。聞くところによると弾圧対策も考えているようです。恐らく今年の秋季闘争を中心に弾圧の手が具体的に延びてくるでしよう。情勢としてはわれわれに必ずしも有利ではありませんしかし経済情勢は彼らがいう程深刻ではなく、悪くなつても去年以上ではないと専門家や学者はいつています。山元ではそういう情勢をつかんで闘いに入つてもらいたいと望みます。悲観的な材料が多いと闘争が崩れがちですから、政府の弾圧が強化されても経済情勢は不利ではないとハツキリ認識していることとこんどの闘いにそう影響はないと思います。そのためにも山元の態勢をガッチリ固めてもらいたいわけです

知事にもの申す
＝辞めたら人格を認る＝

一億円の公金流用で県政を見にくい汚職で塗りつぶした土屋知事は、汚職どこ吹く風と知事の座に居座りの強心臓ぶりをみせている。この強心臓土屋に組合員、主婦から一言もの申すしだいです。

田川 寺田マチ子

責任を取つて自ら退陣すべきです。そうすれば人間土屋として、あなたの人格を認めましよう。でないと、リコールで追払うまでです。

田川 一組合員

あなたは政治的良心を持ち合わせてないようですね。それでは私達は安心して県政をまかせることは出来ません。即時退陣すべきです。

山野 KK

「穴はあけていないだろう」「返せばよい」「しらなかつた」とうそぶく県知事さん、起訴猶予の経歴者、これを県民が税金で抱えている。

山野 一言居士

「赤字々々の家計はもういや」「キズだらけの県政はもうごめんだ」!!あなた!!何か聞いたような文句だわ。

地域常会で
苦情をはき出そう

【田川】地域闘争の一環として、厚生部では、現在日常苦情の集約を行つている。

このため生活改善の話し合いとして、各支部毎に地域常会を開催、二十日までにこの常会を終了して苦情・要求を集約、支部ごとに出された問題解決のために、現場関係方面と交渉、未解決のものをさらに本部に集約し、解決を図るため交渉を行う。

生活改善として私達が取りあげなければならない問題は、社宅居住区の中にはまだまだ多くありますが、この際これらを一切ぶちまけて、よりよい生活環境を作りあげなければならないと思います。

リコールに想う
三池 江川霊徳

給料を受けて痛切に感じることは税金が高いことだ。ところが税金が高いと、憤慨するのは給料日のほんの一寸の間で、もうあくる日にでもなれば税金のことなどケロリと忘れているのがわれわれの実態だ。今度の県庁汚職事件もそうである。新聞に出た当初は、みんなカンカンに腹を立てていたが今ではこの汚職の話を、職場や地域でちつとも聞かない。まさかみんなが忘れてしまつた訳じやないと思うが、何といつてもなさけないことだと思う。ほかの汚職事件と違つて今度のやつは、われわれの手でもつて、われわれが自由にわれわれの判決をつきつけることが出来る問題だ。にもかかわらず五カ月間も県民がポカンとしているザマでは、土屋知事が、知らぬ存ぜぬでノウノウと居座るのも無理はない。県知事はわれわれが選ぶものだ。気に入らねばいつでも自由にわれわれが変えられるものである。われわれは、もつともつと怒りをブチまけねばならぬと思う。